

こころ医療福祉専門学校佐世保校
令和元年度第2回教育課程編成委員会議事録

【日時】令和2年2月23日（日）11:00～11:40

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 2階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

上田陽介（純心整骨院）

廣瀬典治、永田俊晴、篠原卓也、鴨田亮平

欠席：井手浩二（いで整骨院）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 永田俊晴）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 永田俊晴）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

令和元年度第2回「教育課程編成委員会」を開催させていただきたい。

委員皆様には日ごろから本校の教育方針については、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

第2回目の教育課程編成委員会の開催にあたって事前に分科会を実施させていただき、ここでも、ご質問やご教示をいただき有り難うございました。

本会の第1回目を8月に開催させていただいたが、その節にも、貴重なご意見・ご教示をいただき、誠に有り難うございました。

今回の主な議題としてはスポーツ柔整科の新カリキュラムになるが、事前の分科会においてもいろいろなご質問等をいただきありがとうございます。

2点ご報告を兼ねて時間をいただきたい。1点目はスポーツ柔整科の授業時間の変更についてである。健康鍼灸科の閉科し1年が経った、昨年までは健康鍼灸科が午前授業、スポーツ柔整科は午後授業でやっていた。スポーツ柔整科1科だけとなったため、授業時間等をどうするのか、どのようにしたら学生にとってあるいは教員にとっても良い時間帯になるかを考えてきた。その結果、授業開始時間を（1限目）10時10分、終業時間を（3限目）15時40分に実施するように変更をした。また、特別時間がある場合には（4限目）として17時20分まで実施する。

終業時間が早くなるため、国家試験対策の補講時間を今までよりも十分にとることが

できる。去年までは補講終了時間を21時までとしていたため、職員の負担も軽減することができる。授業時間変更に関しては学生・保護者等へは周知済みである。

2点目は、昨年度より新カリキュラムに入り、臨床実習が義務付けられた。本校としては今年度は10施設前後の施設様にお世話になっている。今年の夏から実施したが、特別大きな問題もなく終了している。

本日は、ご多用な中の貴重な時間をお借りすることになり誠に恐縮ですが、業界・社会のニーズと時代に合った質の高い卒業生を社会に送り出すために、皆様方の忌憚のないご意見・ご教示をいただければ幸いです。

4 柔道整復科（学科長 永田俊晴）

（1）教育計画

配布資料9ページ、今年度の反省として、良かった点から報告する。1つ目は2年生の放課後補講についてである。昨年度は2年生後期から実施したが、今年度より2年生前期から週に2回の放課後補講と、月1回の実力試験を実施している。理由としては基礎学力の定着と自宅学習の習慣を身に付けてもらうことを目的としている。

2つ目はトレーナー部の活動についてである。校内活動は週に1回放課後に実施し、テーピングや手技療法、検査法などの実技指導を行っている。校内活動として4月28日高校サッカー合同合宿、5月5日に高総体剣道、6月1日・2日に高校総体ラグビー、7月6日に全国商工会サッカー、11月23日に伊万里ウォーク、1月13日に伊万里ハーフマラソンへ参加した。

3つ目は臨床実習（外部実習）についてである。本年度の8月19日～8月24日期间に1学生30時間で実施している。問題なく終了した。

4つ目は入学者に対してである。来校者数に対しての決定率が高かったということが良かった点である。改善点としては2つあり、1つ目は定員不足について、分母が少なかったという部分は例年変わらずあり、オープンキャンパスの参加者が少なかったため、次年度は来校者の分母を増やしていく。2つ目は提携校からの入学が少なかった。一昨年度までは3～5名の入学があったが、今年度は昨年度に続き0名だったため、来年度の課題となる。

次年度の改善策として1つ目は授業時間を午前中より実施することにした。現行は1限目13時から始まり3限目は18時で終わっていた。次年度からは1限目10時10分から3限目15時40分終了とする。基本的に4限目は授業を実施せず、補講やトレーナー活動にあてていこうを考えている。

2つ目はトレーナー部の担当教員の見直しである、例年は永田が担当していたが、湯村先生を主軸にトレーナー活動を実施しようと考えている。今年度と継続してコンタクトスポーツやボデイケア・コンディショニング活動に赴き、在校生満足度と認知度の向上を図り、学生募集へ繋げる。

3つ目は学生募集の充実である。まずは提携校との連携であり、次年度も高校2年生

から個別ガイダンスを行う。文化祭などの楽興行事に参加して職業理解と学校の認知度の向上を図る。次に柔道整復師の認知度の向上である。ガイダンスに柔道整復師教員が帯同し、柔道整復師に興味がある学生へ直接アプローチを行う。また、他の医療職希望者にもアプローチを行い、柔道整復師の役割・魅力を説明し学生募集へ繋げる。

4つ目は第28回国家試験についてである。2月15日の第3回卒業試験にて最終人数が決定した。今年度は17名中11名が国家試験を受験予定である。

5つ目は就職内定者についてである。2月1日時点では7名が内定をもらっている。内訳は6名が整骨院、1名が介護施設。そのうち県内が4名（内佐世保市内が2名）、県外が3名である。

(2) 質疑応答

上田先生) 臨床実習の内容はどのように変わったのか。

永田先生) 旧カリキュラムでは臨床実習として1つの教科で45時間であり、新カリキュラムは45時間を4つしないといけない。佐世保校では臨床実習をIからIVまで割り振っている。臨床実習Iに関しては、1年次に校内の実習室にて触診や手技療法などを教えている。臨床実習IIは1年次から2年次にかけて実施し、1年次は外部に出すこと目的としており問診や患者誘導をメインに実施している。2年次の夏に外部実習として他の整骨院で研修を受ける。臨床実習IIIは2年次から3年次にかけて学年をまたいでの実施になるが、2年次は臨床実習IIと同様に外部実習、3年次は学内で外傷についての知識、対応、患者誘導含めて整復、固定、注意点、鑑別法の指導を行う。臨床実習IVは3年次に実施し、臨床実習IIIと同様に外傷についての指導を行う。外部実習の実施方法について見学型と体験型がある。今年度は見学型で実施している。

上田先生) 全国の合格率より佐世保校が高いのはなぜか。

永田先生) 1番は放課後補講の充実と成績不良者に対して面談を月1回の模試ごとに実施していることだと思われる。その際に学習時間の見直しや学習方法を指導している。

上田先生) 補講の内容はどのようなものか。

永田先生) 前期期間中は解剖学と柔整理論を中心とした。解剖学は学生の苦手科目となっているためである。後期期間中は全教科段階を踏んで毎日午後9時まで実施した。特に今年度は必修問題の内容も変わるため、そこにも力を入れた。

田中先生) 経営面にも関わるが、今年度の入学者の内訳と入学希望者が昨年度より増えた理由はなにか。

永田先生) 現時点では入学者26名となっている。内訳は男性15名、女性11名、社会人は6名、新卒が20名である。出身地別では佐世保市11名、松浦2名、波佐見1名、長崎市1名、佐賀県5名。残り4名に関しては、ガイダンスに参加した方へのアプローチや資料請求者へのアプローチを実施する。

入学者が増えた理由としては、決定率が高かったことだと思われる。例年は50%だが、今年度は76%であった。今年度はオープンキャンパスやガイダンスなどの学校紹介のやり方を改善し、広報と教員が一緒に参加した。そうすることで迷っている方への柔道整復師のPRを実施できた。

田中先生) 臨床実習を実施して学生からの意見と受け入れ先からの意見はあるか。

永田先生) 実習施設からは有意義な意見が多かった。学生も整骨院での経験がない学生もいるため、柔整師の仕事内容を深く理解することができていた。実習施設側は知識のある柔道整復師と知識の少ない学生の差を知ってもらえたようで、今後の新人指導に結びついたという意見もあった。

田中先生) 就職へのフォローはどのようにしているのか。

永田先生) 1、2年生には面談を年に2回実施して希望先等を聞き取る。あとは求人票を掲示板へ掲示しているだけでフォローは行っていない。3年生には定期的な面談や求人票を教室内へ随時掲示している。希望があれば見学へ連れて行っている。今後は1、2年生のうちから見学へ行かせることも考えている。

田中先生) 佐世保市の整形外科での求人は少ないが傾向にあったが現在も少ないか。

永田先生) 変わらず少ない。

田中先生) 東京都市部では柔道整復師の求人も整形外科からあった。柔道整復師は外傷に強いので、ぜひ探して欲しい。

永田先生) 承知しました。

田中先生) 低学力の学生へはどうアプローチするのか。

永田先生) 昨年度より2年生補講を新たに始めて、今年度も前期から引き続き実施している。まずは基礎学力の向上と自宅での勉強を習慣づけてもらう。次年度からは週2回から週3回へ補講を増やす予定であり、学生主体での勉強意識の向上を考えている。

5 全体の質疑応答
特になし。

6 閉会の辞(司会 永田俊晴)
以上で本委員会を終了する。